

I 主題

対話的な学びを通して、ともに考えを深めることができる子

II 基本構想

1 研究のねらい

本校では、平成 29 年度より「対話的な学びを通して、ともに考えを深めることができる子」という主題を設定し、授業研究を進めている。

昨年度までは、道徳の授業における「なかまと対話する」場面に重点を置き、各学年の実態に応じて様々な対話の技法を試したり、子どもがともに考えを深めるために手立てを工夫したりして実践を行ってきた。その結果、対話を通して友達の考えのよさに気付いたり、自分の考えを再構築したりすることができるようになってきた。また、昨年度末の意識調査においても、「対話することが役に立つ」と実感している子どもの数が増えていることが明らかになった。

このように、本校の子どもたちは、この 2 年間で対話的に学ぶことの意義や大切さを感じ、ともに考えを深めることができるようになってきた。そのような子どもたちが、道徳の授業の中だけでなく、様々な課題に対して積極的に対話を取り入れ、考えを深めていくことは、より主体的に課題を解決していくために、大切なことだと考える。

そこで、本年度は、教科を道徳に限定せず、様々な教科において、対話的な学びを進めていきたい。過去 2 年間の授業研究によって得られた成果をもとに、各教科の特質を生かして対話的な学びを進めていくことで、子どもがより主体的に課題を解決していくことができるようにしたい。

以上のことから、本年度の努力点研究では、以下の点を重点課題として取り組む。

【本年度の重点課題】

- 各教科の特質を生かした対話的な学びを通して、主体的に課題を解決できるようにする。

各教科の特質を生かした対話的な学びの展開例は、「なかまなビジョン・アラカルト」（平成 30 年 2 月 名古屋市教育委員会）を参考にする。

また、各学年で行う対話の基本的なイメージは、昨年度同様に次のようである。

【各学年で行う対話のイメージ】

- 低学年：考えを伝え合い、友達の考えを知る対話
- 中学年：考えとその理由を伝え合い、友達の考えを取り入れていく対話
- 高学年：考えとその理由を伝え合い、互いの考えを吟味していく対話

前頁までの内容を踏まえ、各教科の特質を生かした対話的な学びの学習展開例を図式化すると、以下ようになる。

【各教科の特質を生かした対話的な学びの学習展開例】

めあてを
つかむ

●各教科の特質に応じてめあてを設定する。

自分の
考えをもつ

●過去2年間の授業研究によって得られた成果をもとに、様々な対話の技法を取り入れ、各教科の特質を生かしてなかまと対話する。

考えの
深まり

なかまと
対話する

国
語
の
例

低学年

物語を読んで想像したことをペアで伝え合ったり、質問したりすることで、友達の考えを知る。

中学年

分かりやすい文章の書き方について、ホワイトボードや付箋を活用して話し合うことで、友達の考えを取り入れる。

高学年

よりよい文章構成について、付箋を活用したり、オブザーバーを置いて話し合ったりすることで、互いの考えを吟味する。

まとめる

●なかまとの対話を通して分かったことや考えたことについてまとめる。

振り返る

●学習を振り返り、めあてを達成することができたかを確認する。

※めあてを達成できたかどうかを振り返るとともに、次時への見通しをもつ。(課題解決に向けた主体性の高まり)

対話的な学びを通して、ともに考えを深めることができる子

上記のような学習展開を、教科の特質や各学年の実態に応じて進めていく。それによって、それぞれの教科で、どのような対話的な学びを行うことが考えを深める上で有効なのかについて、実践を通して明らかにしていきたい。

また、本年度は、「対話的な学びを通して、ともに考えを深めることができる子」のテーマで実践研究に取り組む3年目となり、まとめの年度である。以下に示すように、これまでの成果と課題を踏まえ、最終年度として充実した実践研究を進められるよう、各部会、各学年で協力して取り組んでいきたい。

H29 対話的な学びの基盤づくり（道徳）

子どもの生活経験を基に、身近な問題を考える。

成果：どの学年でも、「対話的な学び」を行いやすかった。

課題：道徳的な問題把握の場面に重点が置かれ、道徳的価値の意義や大切さについて考えを深める「対話的な学び」へと十分に結びつかない場面があった。

H30 「なかまと対話する」場面に重点（道徳）

「様々な視点から道徳的価値の意義や大切さについて考えるためには、どのような対話が有効か」を明らかにする。

成果：対話を通して友達の考えのよさに気付いたり、自分の考えを再構築したりすることができるようになった。また、「対話することが役に立つ」と実感できる子どもが増えた。

課題：道徳の授業の中だけに限らず、様々な課題に対しても、より主体的に課題を解決していく必要性。

H31 教科の特質を生かした「対話的な学び」（様々な教科）

各教科の特質を生かした対話的な学びを通して、主体的に課題を解決できるようにする。

対話的な学びを通して、ともに考えを深めることができる子

2 研究の方法

研究を進めるにあたって、以下のような手順で年間を見通した活動を計画し、実践に取り組むこととする。

- ① 各学年で、子どもの実態を把握する。（実態把握の方法は、各学年で検討。）
- ② 実践教科は、各学年で統一する。
- ③ 各学年で、公開授業（前期・後期各1回ずつ）を行う。
（公開授業に向けて各学年で実践や検討を重ねる。）
【指導案：略案 参観者：同学年の先生、推進委員】
- ④ 代表授業は、低学年・高学年で一人ずつ（前期・後期各1回ずつ）行う。
【指導案：細案 参観者：全員】
- ⑤ 事前検討会は、全体で行う前に、低・高学年部会でそれぞれ行う。
事後検討会は、授業実践後、全員で行う。
- ⑥ 中間報告（8月・紙上）を行い、成果と課題を把握し、後期実践に生かす。
- ⑦ 最終報告（2月・口頭）で、実践の成果と課題を発表する。

5 年間計画

4月	○研究主題の設定と研究組織づくり ○推進計画の検討 ○実態把握	推進委員会 全体会 学年部会
5月	○実践計画立案	学年部会
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">前期授業実践（各学年1実践を公開）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 代表授業事前検討会1（低 or 高学年部会） </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 代表授業事前検討会2（全体会） </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 実践後 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 代表授業事後検討会（全体会） </div> </div>		
6月13日		
6月27日		
7月	○中間報告書作成	学年部会
8月	○中間報告	紙上報告
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">後期授業実践（各学年1実践を公開）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 代表授業事前検討会1（低 or 高学年部会） </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 代表授業事前検討会2（全体会） </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 5px;"> 実践後 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 代表授業事後検討会（全体会） </div> </div>		
10月3日		
10月21日		
1月	○実態把握 ○最終報告書作成	学年部会 学年部会
2月	○最終報告会	全体会
3月	○次年度への課題と方向性の検討	推進委員会